

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公表番号】特表2008-514604(P2008-514604A)

【公表日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-533519(P2007-533519)

【国際特許分類】

A 6 1 K	8/73	(2006.01)
A 6 1 K	8/365	(2006.01)
A 6 1 K	8/41	(2006.01)
A 6 1 K	8/49	(2006.01)
A 6 1 K	8/34	(2006.01)
A 6 1 K	8/81	(2006.01)
A 6 1 K	8/84	(2006.01)
A 6 1 K	8/87	(2006.01)
A 6 1 K	8/88	(2006.01)
A 6 1 K	8/20	(2006.01)
A 6 1 K	8/19	(2006.01)
A 6 1 K	8/37	(2006.01)
A 6 1 K	8/42	(2006.01)
A 6 1 K	8/86	(2006.01)
A 6 1 K	8/89	(2006.01)
A 6 1 K	8/894	(2006.01)
A 6 1 K	8/891	(2006.01)
A 6 1 K	8/46	(2006.01)
A 6 1 K	8/36	(2006.01)
A 6 1 Q	19/10	(2006.01)
A 6 1 Q	19/00	(2006.01)
A 6 1 Q	1/14	(2006.01)
A 6 1 Q	15/00	(2006.01)
A 6 1 Q	17/00	(2006.01)
A 6 1 Q	17/04	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	8/73
A 6 1 K	8/365
A 6 1 K	8/41
A 6 1 K	8/49
A 6 1 K	8/34
A 6 1 K	8/81
A 6 1 K	8/84
A 6 1 K	8/87
A 6 1 K	8/88
A 6 1 K	8/20
A 6 1 K	8/19
A 6 1 K	8/37
A 6 1 K	8/42
A 6 1 K	8/86
A 6 1 K	8/89

A 6 1 K	8/894
A 6 1 K	8/891
A 6 1 K	8/46
A 6 1 K	8/36
A 6 1 Q	19/10
A 6 1 Q	19/00
A 6 1 Q	1/14
A 6 1 Q	15/00
A 6 1 Q	17/00
A 6 1 Q	17/04

【誤訳訂正書】**【提出日】**平成23年9月20日(2011.9.20)**【誤訳訂正1】****【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0 0 1 1**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0 0 1 1】****発明の詳細な説明**

驚くべきことに、0.2 を超える DS を有するカチオン性グアールポリマーの使用によって、スキンケア製品に、類似の従来技術品と比較してより長い貯蔵寿命に応じて改善された保護力とより大きい安定性が付与されることが見出された。これらのポリマーの水性粘度は、N-ハンス製品(アクアロン社(Aqualon Co.)が販売)、および、ジヤガー製品(ローディア社が販売)のような0.2未満のDSを有するカチオン性グアールポリマーと比較して有意に低い。本発明のポリマーが有するより高いDSとより低い粘度のために、これらは、皮膚にコンディショニングと保湿を付与するために、かなり高レベルでボディ洗剤のようなスキンケア配合物に用いることができる。加えて、これらは、低いDSを有する対応品であるグアール製品よりも優れた塩耐性を提供する。本発明のカチオン性グアールポリマーのその他の用途は、スキンケアおよび日焼けケア用のローション、液体および固体石鹼である。

【誤訳訂正2】**【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0 0 5 1**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0 0 5 1】**

表1および2では、ラウレス硫酸ナトリウム、コカミドプロピルベタインおよび塩化ナトリウムをベースとしたボディ洗剤系中での適合性について、2種のカチオン性グアールを比較した。塩化ナトリウムは、ボディ洗剤系中にレオロジー改質剤として見出される塩である。市販のカチオン性グアール製品であるN-ハンス(R)3215製品を用いた場合、塩を含まない、および、塩のレベルが極めて低いと、ボディ洗剤系は不安定であった。加えて、塩のレベルを増加させるにつれて、ボディ洗剤系は不安定になった(これは、低い透明度で示される)。T(%) (600nmでの透過率)を測定することによって透明度を測定した。3.0%の塩レベル、不溶性のゲルが観察された。本発明のポリマーのAQUD3799を用いた場合、塩化ナトリウムを含まないか、または、塩レベルが極めて低いと、ボディ洗剤系は不安定であった。しかしながら、これは、塩のレベルを市販のN-ハンス3215製品の場合と同様に高めても不安定さを示さなかった。

【誤訳訂正3】**【訂正対象書類名】**明細書

【訂正対象項目名】 0 0 9 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 9 6】

市販の N - ハンス (R) 3 2 1 5 を添加すると、ボディ洗剤の粘度は、本発明のポリマー A D P P 6 4 8 6 を用いて製造されたボディ洗剤と比較して有意に増加した。すなわち、ボディ洗剤配合物に、コンディショニング性能を有するカチオン性グアールを入れたい場合、市販の N - ハンス (R) 3 2 1 5 は、ボディ洗剤の粘度に好ましくない作用を与るために望ましくないと思われる。本発明のポリマーを添加することにより、コンディショニング用ポリマーをまったく含まないボディ洗剤に比べて、ボディ洗剤の泡の安定性が改善される。このようなポリマーを含まないボディ洗剤の泡の排出時間は、5 8 秒間 (4 8 、 4 8 、 6 4 、 5 5 、 7 4 秒間) であったのに対し、本発明のポリマーを含むボディ洗剤の泡の排出時間は、8 0 秒間 (8 8 、 7 0 および 6 4 、 7 6 および 1 0 3 秒間) であった。